

クリッピングサービスで 「働き方改革」を推進

光高速インターネットサービスを世界に先駆けて展開すると同時に、日本初のオンデマンド型映像配信も手掛けるなど、業界を牽引し続けている株式会社 USEN-NEXT HOLDINGS。

2017年の経営統合を機に、作業効率化とコスト削減を目指し、日経スマートクリップplusを導入。利用から約1年、社内外への「攻めの広報活動」や「働き方改革」の推進などに成功している。

株式会社 USEN-NEXT HOLDINGS / 事業内容: 店舗サービス事業、通信事業、業務用システム事業、コンテンツ配信事業、エネルギー事業、メディア事業

導入サービス: 日経スマートクリップplus

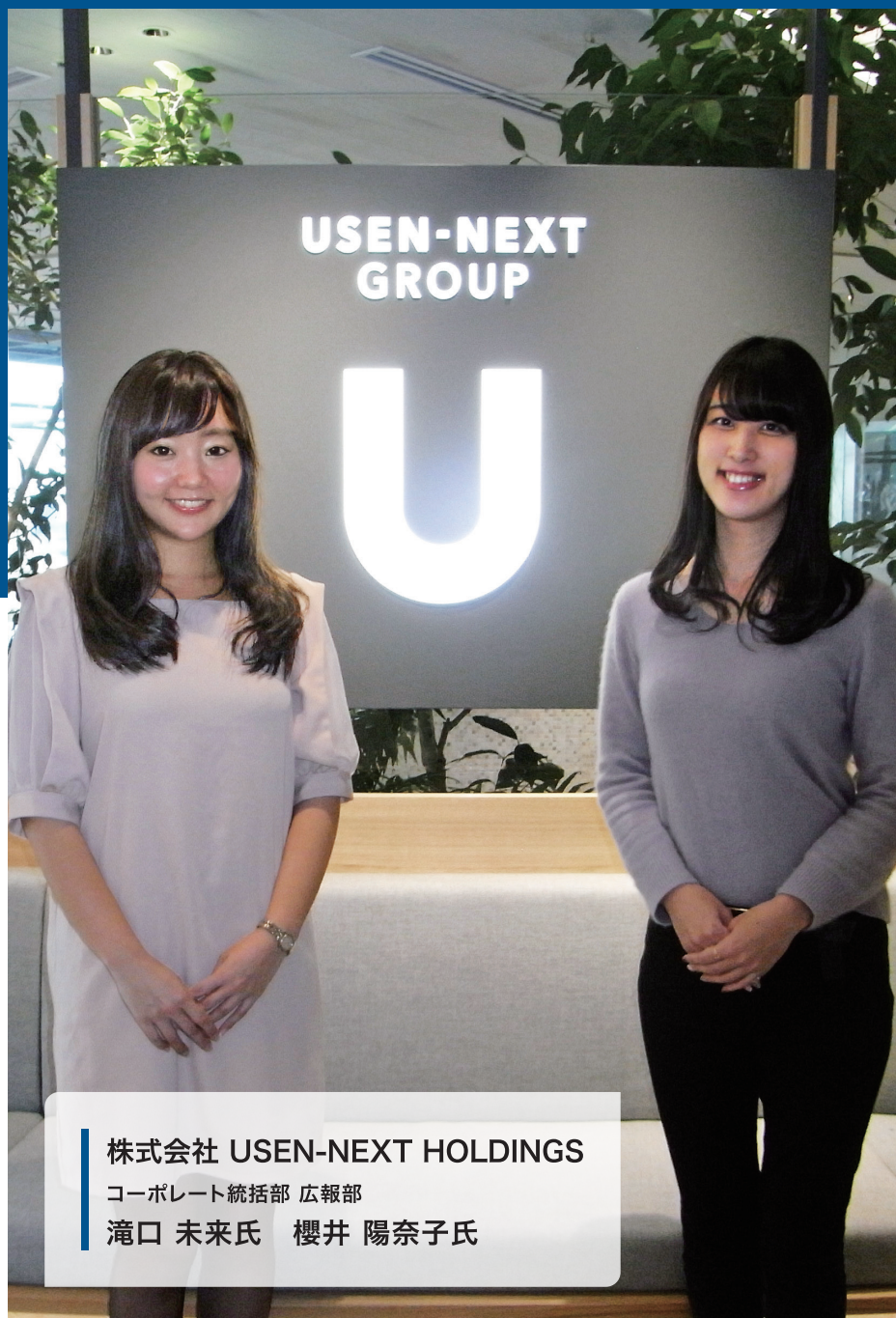
※正式名称: 日経スマートクリップ&ELNETモーニングクリッピング
日本経済新聞社とELNETとのコラボレーションサービスで、日経各紙以外のコンテンツは、ELNETモーニングクリッピングからの提供となります。

導入のきっかけ

経営統合による新たな
グループシナジーの創出に向け、
仕事を全体から見直し。
コンプライアンスもクリアした
日経スマートクリップplusを採用し、
作業の効率化とコスト削減を促進。

2017年12月、株式会社 U-NEXT
と株式会社 USEN の経営統合により、
持ち株会社として新たに誕生した株

式会社 USEN-NEXT HOLDINGS。
音楽配信サービスである「USEN」を
中心とした店舗サービスを主軸に、グ
ループ全体で通信、業務用システム、
コンテンツ配信、エネルギー、メディ
アの6つのセグメントで展開する事業
を管理している。事業領域が拡大した
ことで、いかにグループ企業の強みを
生かしていくか、新たなグループシナ
ジーの創出のためには何が有効かを念



株式会社 USEN-NEXT HOLDINGS

コーポレート統括部 広報部

滝口 未来氏 櫻井 陽奈子氏

頭に、仕事を全体から見直し、整理していこうという意識が社内でも生まれたという。広報部において業務の棚卸しを進めるなか、毎日労力を割いていたクリッピング作業を見直すことに。その過程を、コーポレート統括部 広報部の滝口未来氏と櫻井陽奈子氏が語ってくれた。「経営統合によって、U-NEXT 社とUSEN 社それぞれにあった広報部も統合されました。これを機に、両社がそれぞれ同程度の費用をかけて利用していた FAX 型の記事配信サービスを、コスト削減のため一本化することに。そこで、これまで個別に得ていた新聞や専門紙、雑誌、WEB サイトなどの情報を統合した、ネットワーク型の日経スマートクリップ plus が候補にあがったのです。このサービスはコスト削減だけでなく、作業の効率化も実現してくれます」と滝口氏。元々、両社ともに広報担当は数名しかいなかったため、オフィスでしか受信や印刷ができない FAX 型のサービスでは、配信された情報をまとめるのに毎日 1 時間から 2 時間ほどかかっていたという。「日経スマートクリップ plus は、PC はもちろん、アプリを利

用すればスマートフォンでもチェックできます。出勤前や移動中など、社外でもアクセスできる点は大きな魅力です」と櫻井氏。

さらに、記事選択する際のキーワード設定の自由度の高さや、著作権をクリアしている点も大きな決め手になった。「経営統合したことで、より多岐に渡って、専門的な情報を入手していかなければなりません。トライアルプランを試したところ、日経スマートクリップ plus はキーワードを自由に掛け合わせることができ、その適合性や精度も満足のいくものでした。さらに、記事の著作権もきちんと順守されています。同じように、著作権の順守が前提であるサービス『USEN』を運営する会社をグループ内にもつ東証一部上場企業として、企業コンプライアンスの管理は徹底して行わなければなりません。それを率先する立場にある広報部にとって、必要な情報を安全に共有できる日経スマートクリップ plus は非常にメリットの大きなサービスだと感じています」と滝口氏は語る。



導入後の効果

クリッピング作業を大幅に圧縮したことで、優先すべき本来の業務にまい進。社内外への「攻めの広報活動」と「働き方改革」の推進に成功。

日経スマートクリップ plus を導入して約 1 年が経過した。その間、配信された情報に気になる点があれば、必要に応じて細かくキーワードを設定。導入直後に比べて、より希望に沿った情報が得られるようになってきたという。「競合や業界の最新の動向も一覧で分かり、社内共有ツールとして非常に役に立っていると感じています」

と櫻井氏。何より、クリッピング作業に費やす時間を大幅に圧縮できたことで、もともとの主業務である、広報活動に集中できるようになったことは大きな収穫だという。滝口氏は語る。「グループが統合し母体が大きくなったことで、社内コミュニケーションをより活性化していく必要がありました。サービスを導入してからはそのための仕組み作りに、優先して取り組めるようになりましたね。例えば、弊社ではコミュニケーションツールの一つとして社内報を作成していますが、時間がかけられるようになった分、しっかりとした内容の記事を制作できるようになりました。

さらに、社員同士の交流を促すため、社内のカフェを利用した新たな試みもスタート。2カ月に一度、誕生日を迎える社員を集めてお祝いする『OFFICE de Birthday』の開催や、水曜の18時から20時は、お酒や軽食を楽しめる『ハッピーアワー』を企画するなど、以前よりも社内イベントを充実させることに成功しています」。

社外広報活動には、どのような変化が現れたのか。続けて、滝口氏は語る。「社外活動の課題のひとつに、メディアでの露出の拡大があります。事業軸でも、働き方改革への取り組みでも、その両軸でもいい。いろいろな角度から会社をPRしていきたい。そのためには、様々な媒体に弊社を取り上げてもらえるよう、積極的にメディアキャラバンを行っていかねばなりません。日経スマートクリップ plus の導入により業務の効率化が進んだことで、ほかの企業の広報担当者と一緒にメディアキャラバンに行く機会等も増えました。そこで情報交換ができれば、弊社を取り上げてくれる媒体に出会うチャンスも広がります。会社の露出機会を増やすことに直結するPR活動に力を入れら

れるようになり、大変助かっています」。株式会社 USEN-NEXT HOLDINGS の広報部にて、グループ17社の広報活動を一手に担っているという。無駄を省き、広報部としての役割に集中できる環境が整っていなければ、とても全社の広報活動を担うことはできない。日経スマートクリップ plus を導入したことで本来の業務以外にも、社内外に積極的に働きかける「攻めの広報活動」を展開することに成功している。

さらに、日経スマートクリップ plus の導入は、株式会社 USEN-NEXT HOLDINGS が力を入れている「働き方改革」の一つである、柔軟な仕事スタイルの実現にも大きく寄与しているという。櫻井氏は語る。「弊社は働き方改革の取り組みとして、“場所にこだわらずに仕事をする”をコンセプトに様々な制度を整えています。2018年6月よりスーパーフレックスタイム制度やテレワーク勤務制度を採り入れ、多様な働き方を選択できる職場の実現に向けて取り組んでいます。社内外、どこからでもクリッピング作業を可能にした日経スマートクリップ plus の導入は、弊社が目指す柔軟な働き方の促進に大き

く寄与していると感じています。例えば、午前中はテレワークで、クリッピング作業はスマートフォン用アプリを使って自宅で行うという働き方も実現できるようになりました。また、緊急性のあるニュースがその日にアップされると分かれば、スマートフォンでどこからでもすぐにアクセスできます。臨機応変に対応できるのも使い勝手がいいですね」。

今後の展望

**会社の発展に直結する
営業活動こそ情報収集が重要。
日経スマートクリップ plus を活用し、
有益な情報を社員に届ける
“ハブ”のような役割を果たしたい。**

日経スマートクリップ plus の導入により、社内外に積極的に働きかける「攻めの広報活動」と、場所にとらわれることなく、臨機応変に仕事できる職場を実現したことによる「働き方改革」の推進という、2つの大きな成果を得た株式会社 USEN-NEXT HOLDINGS。今後はどのようにこの

サービスを活用していきたいか、滝口氏が展望を語ってくれた。「弊社は営業がとても多い組織なのですが、彼らが有益な情報を持って営業活動することで、お客様に喜んでもらえ、さらに「契約」へとつなげることができます。その手助けとなるよう、今よりもさらに現場サイドのニーズに合った情報を提供していきたい。日経スマートクリップ plus を活用することで、スピード感をもって、優良な記事をたくさん社員に届けていける“ハブ”のような役割を果たせていけたらと思っています」。



日経スマートクリップ

株式会社日本経済新聞社デジタルサービス法人デスク



0120-751-202

(平日 9:30-17:30)

<http://telecom.nikkei.co.jp/guide/relevance/smart/>